



アイヌ文化のことをもともと話したい！
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソノコ(=お便り)形式のエッセイです。



今月のテーマ

カッコク(カッコウ)

本田優子(札幌大学教授)



アイ

ワソコタンカマハウレクニフヘマンタアン？
六つの村を越えて声を鳴らすもの、な〜ん
だ？アイヌ文化ではよく知られたなぞなぞで、答え
はカッコウ。六は「た〜さん」という意味を持つので、た
くさんの村々を越えて、というニュアンスです。ちなみ
に、「札幌市の鳥」はカッコウ。昭和三十五(一九六〇)
年、人口が五十万人になったの
を記念して市の鳥が決められた
んですって。カッコウの音が響き
渡る大都会って素敵ですよ。

ところで、カッコウは世界各
地で鳴き声に基づいた名前が
付いているとのこと。アイヌ語
名はカッコク。日本語と似てる
けど、ローマ字で書くとkak
kok。最後が子音のkで終わ
るのです。このような子音で終
わる音(音節末子音)がたくさ
んあるのがアイヌ語の特徴で、
カタカナで表記する場合は小文字にします。日本語文
化圏ではカッコウの鳴き声は「か〜こ〜」と母音を伸ば
した音に聞こえ、アイヌ語文化圏では「カッコウ、カッコ
ク」と、日本語にはないkの子音が入る、区切れた鳴き
声に聞こえたんでしょうね。それぞれの言語の持つ音
の違いが、聞こえ方にも影響するということの例と言え



イラスト/山丸ケニ

ますね。

かつてのアイヌ社会では、パウエトク(雄弁)、ラメト
ク(度胸)、シレトク(器量)の三つを備えていることが
村おさの条件。なかでも最も重要視されたのが「雄
弁」で、村同士のトラブルが起きた時、それぞれの村
人たちが見守る中、村の利益を代表してチャランケ
(談判)し勝利するのがリ
ダーの役割だったのです。アイ
ヌ社会ではよく通る声で朗々
と論じることができてこそ人
前の男であり、その様子はまる
でカッコウがさえずるようだと
表現されたりします。

また、アイヌ文学の一つのジャ
ンルとして、ユカラという名前で
知られる英雄の物語がたくさん
あります。その中に、主人公の
少年ポイヤウンペが戦いに出る
ときの出で立ちとしてこんな描
写があります。かぶり物にはまるで生きているような
金のカッコウがついていて、その口からは白い霧が吐き
出されている。身にまとうのは舶来の金の小袖。そこに
も金のカッコウが描かれていて、吐き出された清らかな
霧が小袖の表面に広がっている。この物語だけの独特
な描写ですが、カッコウだけになんともカッコいい！

また、アイヌ文学の一つのジャ
ンルとして、ユカラという名前で
知られる英雄の物語がたくさん
あります。その中に、主人公の
少年ポイヤウンペが戦いに出る
ときの出で立ちとしてこんな描
写があります。かぶり物にはまるで生きているような
金のカッコウがついていて、その口からは白い霧が吐き
出されている。身にまとうのは舶来の金の小袖。そこに
も金のカッコウが描かれていて、吐き出された清らかな
霧が小袖の表面に広がっている。この物語だけの独特
な描写ですが、カッコウだけになんともカッコいい！



次回のテーマは「オフケニ/オマウクシニ
(キタコブシ)」村木美幸(アイヌ民族文化
財団常勤理事)が担当します。



ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分



ウポポイPRキャラクター
「トウレツボン」



イロコイクラブ
「ごんには」からはじめる。

- 本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
- 山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。